

平成26年度 第6回 緩和ケア講演会のご報告

平成26年度第6回緩和ケア講演会は、11月13日に開催いたしました。出席人数は38名、うち、院内25名、院外13名でした。

今年度の年間テーマは「緩和ケアにおける各種スキル ～地域における各職種のプロに学ぶ～」です。第6回目の今回は「緩和ケア病棟から」というテーマで、1人の患者さんの事例を紹介していただきました。この患者さんの治療期に関わった、がん化学療法看護認定看護師、がんの痛みのコントロールに関わったがん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア病棟でのケアや在宅療養への支援をした病棟看護師、それぞれの立場からそれぞれの病期に行ったケアや患者さんの思いをお話していただきました。

患者さんの年齢が若いこともあり、仕事と闘病の両立のために、痛みのコントロールは非常に重要であったことや、患者さんの気持ちだけでなく、ご家族の思いや希望を聞き、最期は、患者さんの望まれた自宅で・・・という希望を叶えることができた事例でした。緩和ケアに関わるスタッフがいろんな場面で行ってきたことをお聞きできる大変貴重な講演会でした。

アンケートでのご質問について、コメントを添えさせていただきます。

ご質問・ご意見とそのコメント

若年者の症例であったが、医療費以外の経済的支援(限度額申請や年金などの手続き)はどうなっていたか教えてほしい。

医療相談員の大蔵さんにお答えいただきました。

医療費以外の経済的支援としては、個別の状況に応じて、傷病手当金、障害者手帳の申請、障害年金等の情報提供をし、手続きを援助することがあります。

若年者の方は、特に経済的負担の不安が大きくあり、なるべく不安の軽減に努めるようにしています。

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX: 0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp